



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

学校だより 12月

令和5年12月1日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

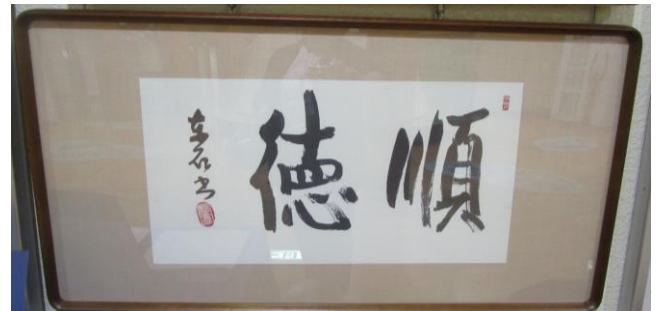
感謝とともに

校長 津田 利枝

11月25日(土)の創立30周年記念式典には、荒川区長西川太一郎様はじめ、多くのご来賓、学校関係者、地域の皆様にご参列いただきまして、ありがとうございました。また、祝賀会では、久しぶりの再会を喜び合ったり、思い出を懐かしく語り合ったりする方々がたくさんいらっしゃいました。お帰り際に「楽しかったです」「子どもたちが素晴らしかったですね」という言葉をいただき、大変嬉しく思いました。祝賀会の運営をしてくださったPTA役員、ボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

節目＝区切りとなる大切なところ

30年という大きな節目を迎えた令和5年度。嬉しい偶然や出会いがたくさんありました。峡田小の前身である第一峡田小学校出身の書家、入山東石様の作品は、まるで30周年をご存知だったかのようなタイミングで学校に寄贈していただきました。



一峡小と八峡小の二つのグローブの発見も偶然でした。

「・・・9月の運動会の少し前に、主事さんから使い込まれた二つの古い野球グローブを手渡されました。校庭の体育倉庫の奥から見つけたのだと主事さんは話していました。見ると片方のグローブには一峡小、もう一つのグローブには八峡小と書かれています。私はそれを見て、二つの大きな手が固く握り合っているように見えました。そして 峡田小おめでとう という声が聞こえてくるような気がしました・・・」(式辞より)

また、峡田小学校 PTA 会長会からは記念品として「羅針盤」をいただきました。記念品コンセプトは、

**澄んだ眼差しの少年・少女が、自らの夢を叶える為、
ある日、羅針盤を携え、大海原に歩み出す**

子どもたちが、VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)時代を生き抜き、未来を切り拓いていく力を身に付けるために、OECDが2019年に考案したのが「学びの羅針盤(ラーニングコンパス)」でした。未知なる環境の中を**自力**で歩みを進め、責任をもって**進むべき方向**を**自分で見出す**ことの大切さが強調されています。峡田小学校は、あらためてこの節目を機に、子どもたちが幸せな人生を送るための確かな力を育む学校として、前進してまいります。



